



1939年9月に第2次世界大戦が始まると、多数のユダヤ人がホロコースト（ユダヤ人大虐殺）の吹き荒れる独占領下のポーランドからリトアニアに逃れて来た。40年夏ユダヤ人難民は、回国的首都カウナスで杉原千畝領事に日本ビザの発給を求めた。だが日本政府は難民の受け入れを認めない。杉原は人道的な観点から外務省の命令に反して、通過ビザを発給して6千人の命を救った。現在この「命のビザ」の通説が変更されようとしている。40年夏のリトアニアは、

杉原千畝と米ユダヤ資金

れ、社会主義国家に組み込まれたのだ。ソ連では資本主義は敵であり、信仰の自由も認められない。地主・資本家と宗教指導者にはシベリア流刑が待っていた。難民の中でも資本家や敬虔（けいけん）なユダヤ教徒は、リトアニアからの脱出を模索する。しかし難民を受け入れる国はなかった。スターリンの大粛清を熟知する杉原は、ユダヤ人の窮状を察して、中米の蘭領キウラソー島を最終目的地とする日本通過ビザの発給に踏み切る。ユダヤ人2300人ほどがソ連の脅威を逃れ、シベリア経由で来日できた。

ただ、この通説変更でも大きな疑問が残る。敬虔なユダヤ教徒は労働をせず喜ばれた。人組織シヨイント（ユダヤ人救済資金配分委員会）だった。シヨイントは、大戦勃発直後に難民であふれるリトアニアに、係官のモーゼス・ベツケルマンを派遣した。難民向けに暖かい住居を用意し、食事や衣服も提供する回国政府に、ベツケルマンは莫大な資金を支援する。ポーランドのユダヤ人1人当たりの100倍の額が、リトアニアのユダヤ人難民向けに用意された。

40年7月ベツケルマンは杉原と会い、難民の渡航費を立て替えると約束して、日本ビザの発給を促した。彼は秋以降もリトアニアに残り、1700人分の旅費をニューヨークから送金させた。41年3月には、難民とともにシベリア経由で来日して神戸に落ち着く。だがシヨイントが債務超過に陥り、ユダヤ人難民の北米行き渡航費を支払えなくなった。最後まで神戸に残った難民900人は、同年秋に難民受け入れを拒む日本政府によって強制的に上海へ移送される。

「命のビザ」通説を見直す

まだドイツに占領されておらず、ホロコーストなど起きてはいない。リトアニアは同年8月、ソ連に併合さ



名城大学 都市情報学部教授

稲葉 千晴

捨（きしゃ）で生活していた。難民の4分の3を占める貧しい彼らは、リトアニアから日本までの旅費を自ら工面できない。しかも当時外貨不足に陥っていたソ連は、自国民向けの安価な切符ではなく、1人100米ドル（現在の40万円）という法外なシベリア鉄道チケットを難民に売りつける。この窮地を救ったのが、アメリカに移民したユダヤ人

ユダヤ人難民は日本通過ビザとシヨイントの資金によってリトアニアから出国できた。残ったユダヤ人の大半は、41年7月にリトアニアがドイツに占領されると、ホロコーストで命を落ととしている。ユダヤ人救出劇では、杉原だけではなくベツケルマンの功績も大きい。

いなば・ちはる 国際関係論。早大大学院修了。1957年生まれ。

